



重症な「人」を治療しています

集中治療科は集中治療室（ICU）に入院されている患者さんの治療を行っている診療科です。ICUでは大きな手術後の患者さんや、治療を行っても残念ながら状態が悪くなってしまった方など比較的重症な病気の方、状態が不安定となってしまった患者さんの診療を行わせて頂いております。具体的には、ベッドサイドのテレビ画面に表示される心電図などの生体モニターや検査データなどを参考に様々な医療機器を用いて人工呼吸を行ったり昇圧薬を用いたり、24時間体制で治療を行っています。現在、獨協医科大学埼玉医療センターでは10床のICUとそれに準ずる8床のHCU（ハイケアユニット）を私たち集中治療科で管理させて頂いています。また2床の感染対策病床も有しており、最近では新型コロナウイルス感染症に罹患し、その後重症化して人工呼吸が必要になってしまった方などの管理も併せて行っています。

近年ICUに入院される方の中に、病気が良くなっても体力が衰えてしまい自宅へ帰れない方が問題となっています。ICU-Acquired Weakness（ICU-AW）と呼ばれ、病状が悪くご自分で動けない患者さんや、人工呼吸などに伴う鎮静薬の使用など、長期の臥床による筋力低下から寝たきりとなってしまいう方もいらっしゃいます。当科では病気を治すだけではなく、このような帰宅できない方を減らすために早期から積極的なリハビリテーションを行っています。

一方新型コロナウイルス感染症に代表されるような新しい病気にも対応するため、最新の医学論文などから情報を得て、診療に取り入れ病気が改善するような取り組みも積極的に行っております。特にコロナ診療で話題となっているECMO（エクモ：人工心肺）を用いた診療も数多く行っていますが、ECMOを装着しながら食事をしたり、歩行のリハビリを行っている施設は国内でも数少ないと自負しております。また患者さん、およびそのご家族には疾患や治療に伴う苦痛が少なくなるよう、さらに安心して治療を受けられるよう、医師・看護師のみならず薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、栄養士など多職種で毎日カンファレンスを行い、急性期から療養のお手伝いや栄養、運動のサポートを行っています。加えてICU-AWを積極的に予防し、より良い状態でICUから一般病棟に移動して頂けるようにも努めています。

最新の知識で診ています

当科は集中治療を専門とする医師の集団ですが、それぞれが集中治療以外の得意分野を持っています。すなわち呼吸や循環、感染症などの内科領域や、急変時の対応などに強みがある救急領域などをそれぞれが得意分野として持っており、それらの知識と経験を用いて診察や治療に当たっています。

加えて、入院されている患者さんの生活の質をより良くするため、それぞれの医師が特にその得意分野において国内外の医学論文などから常に新しい知識を取り入れ診療しています。さらに現在の標準治療を行うために、日本だけでなく国際的な診療ガイドラインを参照し、それらに準拠した治療を心がけています。このような姿勢を持つことで昨今の新型コロナウイルス感染症のような未知で困難な病気に対しても、高いレベルの治療を行えると考えております。

また重症の患者さんたちを診療する上で得た様々なデータは、患者さんの承諾を頂いた上で解析し、よりよい治療を実現するための『臨床研究』につなげています。その結果は学会や論文などで報告して他施設と共有し、日本の医療の進歩に貢献しています。当科では特に人工呼吸や栄養管理、リハビリテーションといったテーマを継続的に研究しており、そこから得た知見に基づいて新たな診療やケアを有能なスタッフを抱える多職種チームで実践し成果を上げているところです。

集中治療は一般の方々にはなかなかとつきにくいところが多くありますが、ご興味があれば是非とも当科までお問い合わせ頂ければ幸いです。



◆ 毎朝の多職種カンファレンス



◆ 人工呼吸中の離床、多くのスタッフがサポートします



◆ ベッド上で自転車漕ぎ、下肢の筋力をアップします



◆ 新型コロナウイルスの患者ケアに向かうスタッフ、感染防御に細心の注意を払っています